

2026年度 第36回 こうさい療育・支援セミナー

【 開 催 要 項 】

1. 弘済学園の紹介と療育・支援セミナーの開催目的

弘済学園は、公益財団法人鉄道弘済会が運営する福祉型障害児入所施設で、未就学児の通所（児童発達支援センター）や18歳以上の方の通所（生活介護・就労継続支援B型）などを併設しています。

本セミナーは弘済学園開設35周年を記念して開催を始め、今回で第36回目を迎えます。これまで多岐にわたる実践的テーマを軸に、参加者と各々の立場からの実践と知見とを分かち合う場として回を重ねてきました。各領域・各分野で期待される将来展望を切り拓く一助になることを願い、本セミナーを開催します。

2. テーマと趣旨

「未来を拓こう」

本セミナーは、現場で直接支援を担当している職員が日々の実践を整理して報告することを主眼としています。36回目を迎えた今回の実践報告は地域生活支援課の職員が主に担当し、在宅の方々への支援にスポットを当てます。

お子さん、利用者さんたちの持つ可能性は、だれにも限界づけることはできません。未就学期、児童期、成人期それぞれのライフステージにある、一人ひとりの大切な「未来」を拓くために、「親子通園」「相談支援・訪問支援」「就労支援」の側面からの支援実践について報告します。

また、それに先立つ基調講演は、当園が長年取り組んできた行動障害への支援を取り上げます。

職員たちの生の声に耳を傾けていただき、ぜひ積極的なご意見やご感想、ご指摘をいただきたいと思えます。お互いに刺激を得て、振り返る、高め合う、明日へのエネルギーを得る、そんな一日になることを期待しています。

3. 主 催 公益財団法人 鉄道弘済会

4. 日 時 2027年1月29日（金）10:00～16:00（12:00～13:00 休憩）

※ 開催後に、当日参加が困難な方に向けたオンデマンド配信を予定しています。

5. 開催方法 ウェビナーを使用したオンライン開催

6. プログラム

10:00	開会の挨拶
10:10 ～ 11:00	概要説明
11:00 ～ 12:00	基調講演
12:00 ～ 13:00	休憩
13:00 ～ 13:50	実践報告①
14:00 ～ 14:50	実践報告②
15:00 ～ 15:50	実践報告③
15:50	閉会の挨拶

概要説明

10:10～11:00

「未来につなげる力 ～弘済学園の支援～」

療育支援課 担当課長 栗原聡美

弘済学園は、1953年に「日向弘済学園」として千葉県に誕生し、1972年には神奈川県秦野市に移転しました。これまで、ご本人とご家族はもちろんのこと、地域や社会のニーズを探求し、一人ひとりの幸せの実現を見つめて変遷してまいりました。現在は、幼児期から青年期までの方々を対象に、9つの事業を展開しています。

時代や社会の大きな変化の中にあっても変わらず大切にしてきた弘済学園の、すべての事業の根幹にある、知的障害・自閉症児者支援の基本としている考え方についてご報告します。

基調講演

11:00～12:00

「行動障害はなぜ起きるのか」

園長 大永 篤

「強度行動障害」の概念は今から38年前の1988年、行動障害児(者)研究会代表の飯田雅子氏らによって提唱されました。「強度行動障害児(者)の行動改善および処遇のあり方に関する研究」と題された報告書には、「強度行動障害の成因は、1. 本人の持つ要因、2. 育成環境側の要因、3. 両要因の交互交渉の結果 であり、(中略)もし、早期から療育が進んでいるならば、もともとの比較的単純な障害が環境との交互作用で複雑に修飾されて永年の経過で固着した行動にはならないことが予想される。(原文のまま)」と示されています。

近年、行動障害の予防的支援がクローズアップされています。

行動障害に発展させないための「正しいとらえ」や「適切なかかわり」は重要です。しかし実際は、行動が大きくなり、激しくなってから、とても向き合えなくなってから「さて、どうしたものか」と困り果て、そのときにはすでにご家族のエネルギーは底をつき、疲労困憊しているケースに数多く出会います。だからと言って「予防」を常に意識しながら日々を進めるのは、ご家族にとっては実感の湧かない、非現実的なことのようにも思えます。

行動障害は何らかの「不快」に端を発しています。本講演では、その「不快」について、人の発達、子どもの心理や困り感、子どもの持つ素因(障害特性)、おとな(親)の心理や苦悩、子どもとのかかわり(交互交渉)、そこから生まれる「誤学習」といった側面から整理し、事例を交えながら述べて、予防的支援の一助としたいと思います。

「育ちの初期における親子通園の意義」

地域生活支援課 課長 松山明美

地域生活支援課 担当課長 堀 由美

地域生活支援課 係長 鈴木由起子 ・ 景山亜弥子

児童発達支援センター「すきっぷ」は、単独通園クラス開設から3年後に親子通園クラスをスタートさせ、7年が経過しました。それぞれ支援期間に違いはありますが、これまで約延べ50組の親子とのかかわりがありました。その経過を振り返りながら、あらためて「すきっぷ」が願う親子通園、そのあり方と、幼児期であるからこそ「親子で通う」ことの意義について考えます。

「地域生活支援における児童期の本人・家族支援の現状と課題

～保育所等訪問支援・相談支援の共同による実践より～」

地域生活支援課 課長 姉崎 薫

療育支援課 担当課長 濱本典子

地域生活支援課 係長 橋本良太

地域生活支援課 福祉指導員(相談支援専門員) 根木地朋子

障害児相談支援「こども相談室ひなたぼっこ」は、障害福祉サービスをマネジメントするだけの計画相談支援ではなく、本人・家族支援を含めたライフステージを切れ目なく支援していくことを大切にしています。また、「保育所等訪問支援ダカーポ」においては、本人・家族支援に加え、各関係機関との連携を含めた訪問先支援が求められています。児童期における地域での生活は、集団に適應できないなど、ご本人・ご家族にとっての「生きづらさ」が発生する場合があります。この「生きづらさ」に対して、相談支援から保育所等訪問支援につながった方々の実践を報告します。

「いきいきと働く ～職場とグループホームの連携～」

株式会社JR東日本環境アクセス弘済学園事業所 所長(出向) 丹野憲仁

地域生活支援課 担当課長 山崎 圭

地域生活支援課 係長 山本卓也 ・ 河野興承

株式会社JR東日本環境アクセス弘済学園事業所では、全社員16名中10名の方が障害者雇用として一般就労しています。当事業所は、生活の場である弘済学園グループホームと同じ敷地内にあり、ご本人を真ん中に、職場とグループホームが三位一体となって綿密な連携を図ることができるという、恵まれた環境にあります。

生活リズムの整え、身辺処理技能の獲得、余暇活動の充実などにより心身ともに安定を見せ、職場で、持っている力を最大限に発揮していきいきと働く皆さんの姿は、まさに「能力内自立の具現」と言えます。皆さんのグループホーム、職場、それぞれでの成長と変化を報告し、生活を支えることの重要性について提唱します。

質問受付

当日、Zoom ウェビナー画面より質問を受け付けます。

※ 全ての質問にはお答えすることができません。あらかじめご承知おきください。

7. 申込方法

鉄道弘済会ホームページ(https://www.kousaikai.or.jp/school/information/info_message/seminar/)、もしくはQRコードよりお申し込みください。オンデマンド配信ご希望の方も、申し込みフォームよりお申し込みください。



8. 個人情報の取扱いについて

受講のお申し込みに際してお預かりする個人情報は、次回以降のセミナー開催案内など、本セミナーに関する内容のみに使用いたします。

9. 注意事項ほか

受講に必要な機材(PC、スマートフォン、タブレットなど)とインターネット環境をご用意ください。

※ 動画配信形式のため、多くの通信料がかかります(視聴に伴う通信料などは受講者負担になります)。

※ 通信環境によっては、動画の乱れが生じる場合があります。

※ インターネット接続に関する不具合やお問い合わせなどには、対応できかねます。

お申し込み時に、Zoom 社より受講時に使用する URL が送信されます。

メールアドレスの記入ミスなどにご注意下さい。

本法人の許可なく、資料の一部およびすべてを複写、転載、または配布、印刷などし、第三者の利益に供することを禁止いたします。また、配信画面の録画、録音および撮影などは固くお断りいたします。

【お問い合わせ先】

公益財団法人鉄道弘済会 社会福祉部

こうさい療育・支援セミナー担当

TEL : 03-6261-3199

E-mail: ryoikuseminar@kousaikai.or.jp

